

## 令和元年度事業報告について

# 令和元年度 事業報告

令和元年度の我が国経済は、「景気は、緩やかに回復している」とされていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により先行きは厳しい状況にあります。また、雇用延長の本格化や会員の高齢化にともなう会員数の減少などで引き続き厳しい事業運営を強いられた一年でありました。

このような中、公益法人として法令遵守を第一義に社会的貢献・社会的責任を果たすべく取り組みを進め、組織の在り方や会員の就業の適正化を進めながら、基本的な就業形態である「臨時的・短期的・軽易な業務」を「請負・委任」を中心に「派遣」による就業も進めるとともに、財源の確保に努める一方、限られた財源の有効活用に意を用い、将来にわたって健全な事業経営の堅持を柱に取り組み、その成果の一端は現れたものと考えています。

また、お客様のニーズを大切にしながら事業の見直しを進め、一層、会員主導の業務推進を図るとともに、事務、事業の見直しによる効率化と公共・民間分野等の新たな受注拡大にも取り組みました。

その結果、非常に厳しい事業運営の中ではありましたが、一定の成果をみることができました。

これも福知山市ご当局をはじめ、京都府並びに各関係機関、事業所、市民の皆様のご支援とご理解、ご協力の賜物であります。併せて、会員の皆様のご協力とご努力の結果であり、改めて深く感謝と敬意を表すところです。

以下、主な事業実施内容について報告いたします。

## 1. 事業経営方策の推進

シルバー人材センターを取り巻く環境が変化していくことに対応するため、また、高齢者が健康で生きがいのある生活を実現し、同時に地域社会の期待に応え、センターの更なる発展に向けて平成29年度に策定した中期計画を基本に事業を推進しました。

## 2. 健全な安定した事業経営と自主財源の確保

激しく変化する社会、経済環境にあって先行きは不透明な状況にあり、事業経営は年々厳しさを増しております。

このため事務事業の見直し、会員主導の推進、自主財源の確保と健全財政の堅持に努めました。

## 3. 安全就業と健康管理の徹底

平成22年度より「事故0運動」を実施してきましたが、傷害事故、物損事故は後を絶たない状況にあり、深刻に受け止めています。

このような中、物損事故の原因では機械除草中の事故が多く、様々な事故防止対策や就業会員による飛び石事故防止の取り組みに成果が現れたものの、切断や破損の事故が発生しました。また、今年度においては車両運転中の物損事故が多発しました。

一方、傷害事故については前年度に比べて減少しました。しかし、加齢にともなう体力や身体機能の低下は避けることができない現実であり、健康診断受診の啓発や「シルバーのつどい」において「健康講座」を実施しました。

### ○安全就業パトロール

5月21日（機械除草2か所、剪定1か所、手引除草2か所）

6月12日（機械除草2か所、剪定2か所）

7月18日（機械除草2か所）

9月19日（機械除草2か所、剪定1か所、道路維持1か所）

### ○交通安全講習会

1月27日 中丹勤労者福祉会館4階大ホール

参加者： 107名

### ○健康講座

2月15日 シルバーのつどい・サンプラザ万助

参加者： 162名

## 4. 適正就業の実施

会員の就業の基本である「臨時的かつ短期的又はその他の軽易な仕事」を請負、委任、派遣で就業することについて、法令遵守のもと発注者（お客様）の多様なニーズに対応するため、長年の経験を生かす技術・技能と就業マナーを重視して、適材適所のもと適正就業に努めました。今年度も就業マナー向上のため、「接遇研修会」を開催しました。

- (1) 「就業相談日」の周知を行い実施しました。
- (2) 「請負」・「委任」による就業を核とし、発注者の指揮命令が受けられる「派遣」による就業も推進しました。
- (3) 接遇研修会

11月27日 市民交流プラザ

参加者： 52名

## 5. 会員の増強

65歳までの定年の延長や継続雇用制度の義務化、高齢者の就業ニーズの多様化等により60歳代後半までの入会が少なくなっていることから、会員の年齢層が上昇し、退会者の増加や活力の維持が危惧される状況にあり、会員の増強は喫緊の課題となっています。

会員増強にあたっては、地区班活動を中心に取り組みを実施しました。

また、新聞広告、会報紙「シルバーふくちやま」への会員募集の掲載や会員募集のぼり旗の常設など積極的に実施しました。

併せて、会員拡大と就業機会の拡大の両面から、市民を対象にした「植木剪定」「整理・収納・調理」「毛筆技能」の講習会を開催しました。

- 地区班長に会員募集中のぼり旗や入会説明会日程を入れた普及啓発リーフレットを配布して活用依頼
- 「会員一人、一会員入会」を推進するため、地区懇談会において入会説明会日程を入れた普及啓発リーフレットを会員に配布して協力依頼
- 研修棟に入会説明会日程の掲示、公用車に会員募集中マグネットシート貼付、会員募集中のぼり旗の常設、機械除草班及び剪定班による就業中の会員募集中のぼり旗設置
- 毎月、会員募集の広告を新聞に掲載
- 植木剪定講習  
5月30日・31日（2日間） 中丹勤労者福祉会館  
参加者： 9名
- 整理・収納・調理講習

7月2日・3日（2日間） 市民交流プラザ

参加者：5名

○毛筆技能講習会

12月11日

中丹勤労者福社会館

参加者：9名

## 6. 就業開拓と受注拡大

就業創出員を中心にあらゆる機会を通じて、会員の多様な就業ニーズや就業特性（資格・経験・特技など）が活かせる就業分野の開拓と受注拡大に努めました。

また、会員・役職員が組織の一員として自らが就業開拓を行うとともに、各地区班においても、日常の活動と併せて地域の実態に基づいた就業開拓活動を行いました。

## 7. 職群班の育成強化

会員主導型の就業を念頭に、「職群班設置運営規程」に基づき各統括班長及び各職群班班長並びにチーフを中心に、会員の仲間意識の高揚と発注者（お客様）の要望に対し、きめ細やかでスピーディーな対応が求められる中、機能の充実や技術・技能の向上、安全指導、さらには新会員の指導育成に努めました。

また、安全対策や受注調整など本年度の課題について協議を重ねました。

○統括班長制度を敷く職群班

剪定班・機械除草班・環境パーク班

○検針班

年1回の総会を開催するとともに、ミーティングを毎月開催

○剪定班・機械除草班・手引き除草班

班長会議、全体会議を実施。剪定班及び機械除草班は班長会議を毎月開催し、安全対策の徹底、受注調整などを行いました。

○剪定講習会

5月15日・16日（2日間） 中丹勤労者福社会館他

参加者：剪定班会員16名

## 8. 独自事業の推進と自立促進

「シルバーショップ（やすらぎ）」は、「シルバーショップ運営委員会」を中心に積極的に進めることができました。また、「正月用しめ飾り」等の事業も継続実施することができました。

しかし、「里山事業」については就業会員の減少と高齢化などにより運営が非常に厳しい状況であることを踏まえて、今年度で事業廃止としました。

### (1) 「活かせゲンキなシルバーパワー 和太鼓“翔”」

- ・シルバー和太鼓の演奏

地域の老人会での演奏、各種団体の催し出演依頼による演奏ほか

### (2) シルバーショップ

会員の交流、生きがいや楽しみの場として開催しました。

今年度も、ショップ関係者の企画と努力により多くの来場者を迎えることができました。また、シイタケの原木、ホダ木、割木等の販売も実施しました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3月のシルバーショップは中止としました。

### (3) しめ飾り

正月用しめ飾りは、年を追うごとに高品質の製品を製作できるようになり、遠方の神社からのしめ縄の受注もありました。

会員の予約販売だけでなく、シルバーショップ販売も好評でした。これからもお客様に喜ばれる商品を安定供給するには、引き続き後継者の養成と材料の確保が課題となっています。

## 9. 地区班の活動の推進

地区班の活動は、センターの組織基盤をなすものであり、センターと会員との緊密な連携体制を整え、地域において生きがいと意欲をもって活動し事業効果を高めるとともに、地域参加や地域活性化に貢献していくことを目的としており、地区班の様々な取り組みを実施しました。

主な取り組みとして、地区班長会議、地区懇談会やボランティア活動などにより会員の緊密な連携体制、交流や親睦を図ることを推進しました。

また、地区懇談会において、地区内での「声かけ」運動を進め、会員間の「見守り」につなげていけるような活動の推進を啓発しました。

## 10. ボランティア活動等社会参加活動の推進

公益法人として、広く社会から支援を受けながら公益目的事業を行うため、また、シルバー事業を通して社会的な信用、信頼を高めるため、ボランティア活動等の社会参加活動に取り組みました。

### (1) 「シルバーの日」を活用したボランティア活動

10月19日に市民病院・三和井ノ奥公園において、除草・清掃のボランティア活動を145名で実施しました。

### (2) 11月23日の福知山マラソンには、ゴミの分別、場内警備に49名が参加しました。

### (3) 地区の諸団体との連携によるボランティア活動

- 5月21日 佐賀地区班 佐賀小学校茶摘み
- 5月29日 上川口地区班 上川口小学校みどりのカーテン作り
- 6月30日 雀部地区班 雀部小学校環境ボランティア活動
- 8月18日 昭和地区班 昭和小学校環境ボランティア活動
- 9月16日 修斉地区班 修斉小学校清掃ボランティア活動

## 11. 普及啓発活動の推進

シルバーに対する市民の認知度は一定得られていますが、シルバー人材センターの仕組みや就業の内容について更なる理解を得るために各家庭や各種団体等・地域全体に広く周知を図りました。

### (1) 事業内容を紹介したリーフレットを主要施設や事業所等に配布し、就業機会の拡大に努めました。

### (2) 会報紙「シルバーふくちやま」の自治会組回覧、機関誌「月刊シルバー人材センター」を関係機関及び企業等に配布しました。

### (3) 10月のシルバー人材センター事業普及啓発促進月間における普及啓発活動

- 10月16日に京都府シルバー人材センター連合会との連携により、市民を対象にした「シニア健康講座」を開催しました。
- 10月27日に市内3か所の大規模小売店において、地区班長及び役員らによる事業紹介・入会説明会日程を入れた会員募集のリーフレット、ポケットティッシュを配布する街頭啓発活動を実施しました。
- シルバーの「のぼり旗」をシルバー事務所前や一部地区に設置して、会員募集、センターの周知と受注機会の拡大に努めました。

### (4) ホームページによるシルバーの仕組みや事業のPRにより、受注機会

の拡大、会員の増強に取り組みました。

## 12. 情報収集・提供・調査研究

全国シルバー人材センター事業協会、近畿シルバー人材センター連絡協議会、京都府シルバー人材センター連合会、府内各シルバー人材センター等との連携を密にして、情報収集、調査研究に努めるとともに、インターネットを効果的に活用して、各種情報を収集して効率的な運営にあたりました。

また、ホームページや「シルバーふくちやま」等で会員等へ情報提供を行いました。

## 13. 個人情報の保護

大切な個人情報については、当センターの定めた「個人情報保護方針」等に沿って個人情報の管理と適正な取り扱いに努めました。

## 14. 組織体制の充実強化

会員相互の連帯意識や就業機会の拡大、未就業会員の減少、各事業への参加意識の向上などにつながる地区班の活動はセンターの基盤を成すものであり、地区班長会はもとより様々な機会を通じて地区班長と職員とのコミュニケーションを図り連携を密にしました。また、職群班長とは班長会議、ミーティングや就業を通じて職群班、会員、職員との連携を密にしました。さらに、地区懇談会においては、役員・職員が地区担当別に出席し、会員の意見を聴きコミュニケーションを図りました。

しかし、今年度の地区懇談会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年3月の開催は中止となりました。

## 15. 事務局機能の充実強化

実務研修への参加や他センターとの交流による情報交換などで、事業経営を視点においた職員の意識改革に努め、会員・役員・職員が一体となって組織の充実と事業の円滑な推進に努めました。

## 16. 会員の福利厚生への推進

会員相互の親睦と連帯意識の高揚並びに福祉の増進を図る「会員互助会」を支援しました。